

## 平成29年度 第1回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 平成29年5月11日(木) 午後2時から4時30分まで
- 2 会 場 中央図書館 2階会議室
- 3 出席者 図書館協議会委員：10名(欠席2名) 傍聴人：なし  
事務局：地域学習担当部長、中央図書館長、館長補佐兼庶務担当係長、  
花小金井図書館長、小川西町図書館長、調査担当係長、  
サービス担当係長、資料担当係長、推進担当係長、大沼図書館長  
計10名
- 4 配布資料 資料は省略させていただきます。
- 5 委員任命式(委員任命書の交付)
- 6 松原地域学習担当部長あいさつ  
図書館協議会は、図書館の運営全般について図書館長に意見を述べる機関と位置付けられている。きたんのない意見をいただきたい。  
小平市の図書館は、開館から今年度で42年目を迎える。これまで、豊富な蔵書数で貸出しを支えるとともに、情報提供手段としてインターネット開放端末の設置やWi-Fi環境を整備し、地域の情報拠点として充実を図ってきた。また、人と情報の出会いの場として「なかまちテラス」をオープンさせた。さらに、子どもの読書活動推進のため、学校図書館の支援にも力を入れてきた。一方、運営は子ども文庫連絡協議会をはじめとする各関係団体との連携を深めるとともに、今では多くのボランティアの方々も参加活躍されている。  
今後、小平市政を取り巻く社会状況を見据え、時代の変化に対応した図書館サービスを提供するために、その機能の充実と見直しに着手する。これまでの小平市の図書館の成長を踏まえ、時代が求める図書館のあり方について検討を進めていくので、委員の方々のお力添えをいただければと思う。
- 7 委員及び職員の紹介
- 8 職員の人事異動について(資料No.2)  
4月1日付けで、図書館は13名の異動があった。

## 9 会長及び副会長の選任について

会長に落合美代氏、副会長に大沼晴暉氏(欠席)を選任

## 10 議事等

参考資料の確認 小平市図書館協議会名簿(資料No. 1)

### (1) 報告事項

#### ① 平成29年度図書館協議会開催日程について(資料No. 3)

今年度も例年どおり年6回開催予定。日程が変更となる場合のみ開催通知を送付する。

#### ② 平成29年度小平市立図書館事業計画について(資料No. 4)

昨年度の第6回(平成29年3月23日開催)の協議会において事業計画の承認を受け、今年度取り組んでいく形である。

その内容は、1の基本方針として「小平市教育振興基本計画」を受け、図書館の主な施策として「図書館資料の充実」、「情報発信機能の強化」、「子ども読書活動の推進」及び「学校図書館支援の充実」に取り組む。

主な事業としては、

- ・「地域の情報拠点として大きな役割を果たすために、地域資料・情報の充実と情報発信の推進」・・・昨年度に引き続き「小川家文書」のデジタル化を推進。
- ・「中央図書館、仲町図書館に整備したWi-Fi機能や中央図書館に導入した国立国会図書館デジタル化資料送信サービスにより、利用者の調査研究の利便性を図り、情報サービスを充実」・・・一層のレファレンスサービスの充実。
- ・「第3次小平市子ども読書活動推進計画」の着実な推進(今年度が3年目)。
- ・「学校図書館との連携推進館と位置づけた仲町図書館を中心に、学校図書館の支援を実施」・・・仲町図書館の学校図書館相談員を中心に学校図書館の活動を支援する。
- ・「図書館利用に障がいがある方に対し、ハンディキャップサービスの充実」・・・一昨年からはじめた宅配サービスと合わせ、ボランティアによるハンディキャップサービスをさらに充実させる。
- ・「生涯学習の振興と地域資源として周辺地域の活性化に寄与するために、なかまちテラスの事業を実施」・・・2年前に開館したなかまちテラスは、公民館と図書館の複合施設であり生涯学習の両機能の相乗効果を図る。

これらを受けて、具体的な実施事業を26項目策定した。今年度、新規事業として新たに加えたのが次の2項目である。

- ・「図書館のあり方検討」・・・市の公共施設マネジメントや行財政再構築プランを鑑み、図書館協議会の中でも検討していきたい。
- ・「公文書館機能の検討」・・・図書館は、地域資料の収集の蓄積があり、歴史公文書等の有効活用に向けての体制作り。

#### ③ 図書館運営状況について

・図書館行事等の報告と今後の予定について(資料No.5)

(これまでの報告)

3月25日～26日 小平図書館友の会の古本市開催。

4月1日～5月17日 恒例の「こだいら子ども読書月間」を開催。今年度は、中央図書館だけでなく、地区館全館で事業を行うこととした。

5月10日～ 絵本の読み聞かせ実践講座開催(全3回・17日、24日)。

(今後の予定)

5月13日～14日 「なかまちテラスまつり」を開催。仲町公民館と仲町図書館の合同開催。また、昨年に引き続き小平図書館友の会と共催で「ビブリオバトル」も実施。

5月20日 マルチメディアDAISY図書の紹介・・・小平二中の特別支援学級の生徒に紹介。昨年度は同学級の先生方に紹介しており、利用増加のためのPRを兼ねる。

6月6日～ 蔵書点検に伴う休館

6日～9日：花小金井、小川西町、喜平

12日～16日：中央、各分室

14日～16日：仲町

20日～23日：上宿、津田、大沼

その他、小学校3年生の図書館見学や中学生の職場体験等の予定あり。

・平成29年度の司書講習への職員派遣について

例年どおり7月下旬から9月中旬にかけ、職員3名を派遣。派遣先は鶴見大学。

④平成28年度図書館事業報告について(資料No.6)

・市内登録者数は、前年比5,228人の増。また、貸出資料数は前年比27,396冊減の1,545,789冊。ここ数年、全体的な数値は減となっているが、多摩六都構成市でも同様の傾向にあり具体的な原因となるものについては、各市でも掘みかねている。

・図書購入冊数及び寄贈冊数は、概ね例年どおり。

・所蔵資料数は、前年比約1万冊増の123万4千冊。

・月別館別登録者数及び貸出者数は、いずれも対前年比は減少。

・リクエストサービスの件数は、平成24年1月から受付件数を5冊から10冊にしたことから当初は増加傾向。現在は横ばい状態にある。

・相互貸借は、例年と同様の傾向にある。貸出、借用とも約7千冊。多摩六都、三多摩、23区への貸出、借用及び都立多摩図書館からの借用についても大きな変動なし。

・レファレンスサービスは、前年度比1,299件の増。貸出数は減っているもののレファレンス件数は増加傾向にある。

・広域利用統計では、4市の中で貸出者数、貸出資料数ともに東村山市民の利用が多くなっている。

・団体貸出については、小学校の学級文庫以外は増加。学校への貸出は校長会、司書教諭連絡協議会、図書館と学校との連絡会、教育委員会だよりなど、機会あるごとにPRをしている。

⑤小平市立図書館の臨時休館について(資料No.7)

毎年実施している図書資料の点検・整理のための臨時休館。例年どおり3つの期間に分け、延べ3週間にわたり実施する。3つに分けて実施するため、貸出等は開館しているいずれかの館で可能。ただし、リクエストの移送は点検終了後。また、全館のブックポストが利用可能なため、貸出期限の延長は行わない。

なお、仲町図書館はICタグを貼付しているため3日間で実施する。

⑥学校図書館協力員の配置について

学校図書館の運営支援及び機能充実のため、市内小・中学校全校に学校図書館協力員を配置。司書教諭や図書担当教諭により図書室を開室し、児童・生徒の利用の支援、図書の整理等を実施。また、学校図書館協力員の研修を年6回程度実施予定。

この4月からの新規協力員は、上宿小学校と上水中学校の2校。

⑦平成29年度ブックリサイクル事業について(資料No.8)

10月、1月及び2月に実施。10月と2月は一般書、児童書を、1月は雑誌を予定。雑誌は2年保存と5年保存、及び1年保存の週刊誌が対象。

周知は、ポスター、ちらし及び図書館ホームページによる。

(報告事項についての質疑・応答)

委員：相互貸借の中で八王子市との貸出及び借用が多いが、その理由は。

事務局：相互貸借にはグループ分けがある。八王子市、府中市、調布市及び町田市が同じグループにあり、小平市はまず八王子市に依頼をしているので件数が多い。

委員：そのグループ分けは東京都の全図書館で組まれているのか。

事務局：26市の館長協議会の中に貸出部会があり、偏りが出ないように運用している。

委員：新年度の事業計画にあるブックスタートの実施は本決定なのか。

事務局：健康センターでの3、4か月健診時に現在読み聞かせを行っているので、この場で実施する。この健診は該当者の97パーセントが受診しており、図書館の利用をPRするには良い機会である。ブックスタートは26市でも実施している市が多い。その場で本を渡すとおはなし会に参加するなど、かなりの効果がある。渡す本も既に持っているものを避けるように配慮する。児童サービス全体の活性化の一端としたい。

委員：ブックスタートの考え方は良いと思うが、運用上の問題として、子どもが複数いる家庭では提供される本が重なることもあるので、本の選択はできないか。また、その提供される本の出版社に偏りが出ないようにも配慮ができればと思う。

事務局：健診には1回に約70名の方が来る。1グループを4～5名とし、ボランティアに読み聞かせの対応をしてもらおう。今年度は準備期とし、来年度から実施する。その過程の中

でさらに意見等をいただければと思う。

委員：この図書館協議会の場合でも以前からブックスタートの話は出ていた。議会でも質問されたこともある。予算的な問題もあるが、やはり選書に難しさがある。その方法はどうするのか。

事務局：選書方法は限定される可能性はあるが、予算が付いたことにより実施に向けてさらに図書館利用に結び付けられるよう検討していきたい。

委員：ブックスタートがすぐに始まるわけではないが、本の購入先はどうするのか。生まればかなりの数を購入することとなり、営利的な問題が生じる恐れもあることなどから、考慮することが多々あるので慎重な判断をお願いしたい。

事務局：地域振興を考え地元の書店組合から購入ということになるが、書店数が減っており、それも難しくなっており、検討している。

委員：昨年、全国規模で調査したところ、地元書店からの購入とチェーン店等からの購入と二極化されている。小平市に書店がなければ、地域住民により多くの本を提供することが可能となるように、安くチェーン店購入するのも手段のひとつである。

事務局：契約の仕方も含め検討していきたい。

会長：ブックスタートを始めるにあたり、書店の選び方及び書籍の選び方は核になることなので十分な検討を願いたい。今年度予算で本を購入するのか。

事務局：6月に確定する今年度の予算は、まず、備品等の設備関係や講演会等に使用する。本の購入については、平成30年1月以降購入予定となる。

委員：ブックスタートではボランティアの方が保護者と子どもに読み聞かせをする。子どもはもちろんだが保護者への影響も大きい。そのため十分な体制整備をして行っていただきたい。

委員：今日初めてブックスタートの話聞いた。非常に興味深い。どんな本を読みたいのかニーズの吸い上げが必要ではないか。その傾向の把握のためのアンケート調査も考えられるが、本の種類はシステム化、把握されているのか。

事務局：小平市では「絵本のへや」や「おはなし会」の実績があり、過去からの本についてのデータが蓄積されている。また、市民を対象とした「読み聞かせ実践講座」を毎年開催しており、その中で選ばれる本は概ね決まっている。まずはそれらを中心に提供していければと考えている。

委員：子どもが複数いる家庭では、同じ本を健診のたびに提供されてはあまり意味がない。手間はかかるかもしれないが、各家庭の事情に即した本の提供方法が望ましいと思う。

委員：家庭ごとに適した提供方法について、他の自治体の情報収集はしているのか。

事務局：ブックスタートは26市中15市が実施している。また、個々に気が付いた点は照会し、情報を収集している。

会長：ブックスタートが始まっても現行の健診時に配布しているリストは継続するのか。

事務局：継続する。本になじむことがひとつの目的であり付加価値と考える。

委員：本は配布されるリスト、文字だけでは分かりにくい。ホームページに掲載されている本の箇所を検索すると内容が見えてくるような形となれば分かりやすい。

事務局：毎年、夏休みのおすすめ本を用意している。著作権上も、出版社の許可を得て、小・中学校に書名、表紙、内容を記した資料を配布し、また、ホームページにも掲載している。

委員：行事予定の中で、5月24日に大沼保育園の特別おはなし会というのがある。初めて目にするが、実施に向けての経緯は。

事務局：新しい企画として大沼保育園と大沼図書館とが調整し、大沼図書館で実施する。

委員：大沼保育園側からの要望で、図書館見学を含めたような形なのか。

事務局：大沼保育園側からの要望である。図書館見学はなく、おはなし会のみである。前年度には小川西町図書館で、小川保育園を対象に訪問しておはなし会を実施している。

委員：7月13日に実施予定の「大人のためのおはなし会」は、本を楽しむきっかけでもありその意義は大きい。しかし、日程的には幼稚園などが、夏休み前なので午前保育となり、保護者の参加が難しくなる。保護者が参加しやすい日程での実施を考慮願いたい。

事務局：要望があれば検討していきたい。

委員：5月25日に小学校の図書館見学が予定されているが、これは学校からの要望なのか。

事務局：そのとおりである。

委員：年間ではどのくらいあるのか。

事務局：昨年度の実績では、小学校17校で52クラス、1,471名。幼稚園が1園63名。保育園は1園28名である。

委員：子どもたちの活字離れが騒がれているなか、図書館を見学してもらい、読書に興味を持ってもらうという図書館側からの情報発信も必要なのではないか。

委員：小学校では3年生で小平市の学習、4年生で東京都の学習がある。その3年生の学習の一環で公共施設の見学を行い、近くに図書館があれば見学に行く。その際に図書館のカードをつくり、お話を聞くなどを実施している。

事務局：見学時におはなし会等を体験してもらっている。

会長：小平市では職場体験というものを生涯学習の中で実施している。市役所のみならず、地区館を含めた図書館に見学や体験に応募してくる子どもたちがいる。ただ、1回の応募に来る子どもが少ない。これをクリアするためには小・中学校と連携を図っていければと思う。図書館では、バックヤードツアーや親子の図書館見学等企画ものもあり、市報で呼びかけている。

事務局：市のホームページでも広報している。来館者に対してはポスターやチラシでのPRも行っている。職場体験は行政だけでなく、様々な民間の職場にも行っており、行政よりも人気があるようである。

委員：図書館のあり方が変わりつつあるなかで、事業統計の取り方で貸出数が減少傾向にある原因が不明という漠然としたものでなく、例えば中央図書館に財政的なこともあるが自動的に統計が取れるよう赤外線センサーを設置するなど、貸出数は図書館の利用が変化

したことにより減少してはいるものの、図書館はこのように活用されているということを訴える必要があるのでは。

事務局：図書館は貸出中心から滞在型に変わりつつある。それに対する新しい指標が必要ということは認識している。効果のある指標はどのようなものなのかは、今どこの図書館でも課題となっている。資料にＩＣタグを貼付してあれば出入口での自動把握ができるが、仲町図書館のみが貼付しているというのが現状である。

委員：調査統計のような来館者の動向の調査は日々の業務の中ではできない。今は様々なセンサーがあり、インターネットにつながる。中央図書館ではWi-Fiが整備されているので、動線調査が可能かもしれない。また、スマートフォンの利用状況による把握の仕方もあると思う。

事務局：確かに図書館の使い方は変化している。中央図書館では開架の一部を滞在可能なスペースを整備したり、書架の本の表紙を出すいわゆる面だしの展示を多くしたりと工夫をしている。しかしながら、ウェブから本を予約し、来館はしたもののカウンターで本を受け取りすぐ退館してしまうケースが多いのも事実である。このような方へ他のサービスを知ってもらうなどの考慮もしなければならない。

会長：図書館は今、カタログの図書館から情報の図書館に変わり、落ち着きつつある。次のサービスが課題である。小平市の第3次行財政再構築プランに結びつくものなのかこのメンバーでいろいろと検討していく必要がある。

## (2) 協議事項

特になし

## (3) その他

提言「なかまちテラスを開設して」について

2年間にわたり図書館協議会の委員の方に協議していただき、今年3月末に提言をいただいた。この提言は、平成27、28年度の図書館協議会の研究課題として協議していただいた。

内容は、仲町公民館・図書館の合築の経緯や新たなサービスについて述べられている。

仲町図書館が学校図書館支援の中心館ということで国における学校図書館政策の経緯と小平市の読書支援があり、以降小平市における学校図書館支援と今後の課題という構成になっている。

小平市は比較的早くに学校図書館協力員の配置をし、活性化に努めた。ただ、今後現状維持で良いのか提言を活かしながら進めていきたい。